

徳力貫藏

二十八歳

淺草御藏前町札差  
伊勢屋幾次郎召仕中働

長松事 喜兵衛

四十二歳

右貫藏儀、松平陸奥守領分奥州名取郡仙臺領北方根岸村長町五右衛門借家善助倅にて、父は十五歳之節病死、十ヶ年已前寛政三亥年まで、母と兩人にて小商賣致居候へ共、手廻り不申候間、母相談之上、同國宮城郡小泉村杉の下百姓七三郎倅長松、同年十一月中看抱人に頼相稼候處、大酒にて身持不宜、身上も難相續、八年已前二月下旬、長松へ母申渡し候は、不如意に相成候間、外へ稼付候様申聞差置候處、四五日過、同月二十四日之夜臥し罷在候へば、八つ半過と覺しく、母うなり聲致し候間、驚き目覺見候處、母を右之方耳より、頬へ掛け切付、長松儀は逃去り候、駈付候へ共、暗夜にて見失ひ、母は相果候間、右之段領主へ相届け檢使濟、其後家内取調べ候へば、賣溜金十兩紛失金取逃仕り候、依之其節より敵討可申存念に候へ共、在方之儀故、相分り不申候處、御當地へ参り居候よし承、當三月下旬、私儀も御當地へ罷出、藥研堀埋地に罷在候、劍術指南大越主税儀は、知人に付便り参り、右櫛淵彌兵衛方へ申込、内弟子に相成、劍術指南請、長松行衛諸所相尋罷在、今日彌兵衛倅彌司馬へ相斷、淺草觀音へ參詣仕罷歸り候途中、今夕七つ半時頃、同所御藏前片町往還にて敵長松見當、捕御役所へ召連可申と存候内、振放し逃去り候様子に付、拔打に仕、止めは刺不申候へ共、長松儀は、相果申候、略下

〔視聽草 初集 四〕常州復讐

三間市藏話、五月文政廿三日

淺田鐵藏淺田只助養子父のかたき成瀧万助、常陸國鹿島郡磯濱村之内祝町といふ所に居るよしを

聞出し、其所に至り、睨と見留、江戸江出て門次郎只助に云聞せ、當申四月十八日、兄弟同道に而